

## 社会福祉学科

科目名: 心理学統計法			担当教員 氏名: 竹ノ山 圭二郎			
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	1年次	後期	専門科目	講義	選択	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:						
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
心の諸問題について収集されたデータを分析・解釈し、意味づけるための統計学的技術を習得する。					t検定、分散分析、相関分析、 因子分析、 $\chi^2$ 分析	
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福祉マトリックスで示される番号)		2. 5. 9.	
A 知識・理解力			心理学統計法における基礎知識を理解している。			
B 専門的技術			利用者の生活ニーズをアセスメントするための情報分析技術を身に付けている。			
C 論理的思考力			人間の行動や心理について論理的に思考する力を身に付けている。			
D 問題解決力			問題解決のために収集された情報を分析・解釈できる。			
H コミュニケーション力			情報を的確にまとめ、わかりやすく説明できる。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 80 %	レポート: %	発表: %	実技試験: %	その他: 20 %		
特記事項: 与えられたデータを実際に統計処理しながら、スキルを身につけるアクティブラーニングで学びます。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習    ディスカッション、ディベート    グループワーク <u>プレゼンテーション</u> 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 詳細は初回時に説明する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 中間期と終了時に学習到達度を個別にフィードバックし、必要のある学生に対しては補習を行う。						
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)			
			学習内容	学習に必要な時間(分)		
①尺度と代表値の理解と仮説検定の考え方			代表値と仮説検定についてまとめる	30		
②エクセルの基本とデータ入力の基本			データ入力方法の練習	120		
③平均値と標準偏差の算出方法とグラフの作図			代表値の算出と作図の練習	120		
④t検定の考え方			t検定についてまとめる	120		
⑤対応のないt検定の手順			対応のないt検定の練習	120		
⑥対応のあるt検定の手順			対応のあるt検定の練習	120		
⑦一要因被験者間分散分析の手順			被験者間分散分析の練習	120		
⑧一要因被験者内分散分析の手順			被験者内分散分析の練習	120		
⑨平均値の差の検定のまとめ			第1回～第8回までの総復習	180		
⑩二要因分散分析および交互作用の考え方			二要因分散分析についてまとめる	120		
⑪相関分析の考え方と手順			相関分析の練習	120		
⑫重回帰分析および因子分析の考え方			重回帰分析・因子分析をまとめる	120		
⑬クロス集計表の理解と作成			クロス集計表の練習	120		
⑭ $\chi^2$ 乗検定の考え方と手順			$\chi^2$ 乗検定の練習	120		
⑮相関および名義尺度データについての分析のまとめ			第9回～第14回までの総復習	180		
使用テキスト: ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法—方法の理解から論文の書き方まで—、田中敏・山際勇一郎(著)、教育出版株式会社、ISBN978-4-316-32901-7			その他参考文献など: 村井潤一郎・柏木恵子(著)ウォームアップ心理統計[東京大学出版会]; 丸山欣哉・佐々木隆之・大橋智樹(著)学生のための心理統計法要点[おうふう]			
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 統計学を学ぶには、実際にデータを自ら分析・処理してみる以外の近道はありません。自分でデータ分析を行なうアクティブ・ラーニングで学びます。事後学習での練習が大切です。						